

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100658		
法人名	社会福祉法人 自立共生会		
事業所名	社会福祉法人自立共生会 ひかりの里 2階		
所在地	三重県桑名市新西方3丁目187番地		
自己評価作成日	平成24年10月6日	評価結果市町提出日	平成 24 年 12 月 25 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 11 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念”お年寄りの底力を生かす”を実践し、利用者の昔取った杵柄(かまどでのご飯炊き、門松しめ縄作り、お料理、おやつ作り等)を子どもや職員に教えて頂き、また、外出、外食、買い物・散歩ついでに防犯パトロールを実施しています。しょうがいにかかわらず子ども達とも様々な交流をしており、日々の生活の中で役割を持って尊敬され、感謝される存在となって頂けるような環境つくりと支援を行っています。自治会班長として地域清掃、リサイクル委員などの自治会活動や小学校での運動会の応援や文化祭の参加で認知症のお年寄りの底力を地域の中で発信しています。日常の思いや自己決定を尊重できる様、里人様の思いを大切に考え地域の中で一住民として、その人らしい生活を送って頂けるよう温かく見守ってくれる職員がたくさんいます。また重度になっても安心して安全な生活が送れるよう医療チームとの連携も図っており、ターミナルの取り組みも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大団地の一角にあって、事業所の周辺には同系列法人の医療機関、託児所、高齢者施設等がありこれらの施設とは交流がある。現在当事業所の一部の1階、3階が改修工事のために、2階の利用者が、仮の住居に移っているが毎日1回は事業所に通っている。まもなく改修工事は終了する予定である。毎日午後になると託児所の幼児や学童保育の子ども達が来て利用者となごやかな時間を過ごす様子は、子ども達の親達からも良い評価を得ている。職員は月1回のミーティングには全員出席し、また、毎月月間報告書に意見・提案を記入し提出している。これに対して施設長がコメントをする等、職員の励みになっている。日々こやかに生き生きとした介護をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念として「お年寄りの底力を生かす」を掲げ、利用者一人ひとりが、能力や昔取った杵柄を生かした役割を持ち、活躍できるようなしなかけ作りを行っている。	「お年寄りの底力を生かす」を理念として、利用者が今までに培った知恵と技を生かす支援を、施設長はじめ職員は日々の介護で実践し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し班長を担当している。ゴミ出しや、地域清掃、親睦会、地区防災訓練に参加している。又、ショッピングセンターへ食材の買い出しや、毎日の防犯パトロールや朝のゴミ出しの際、近隣の方と挨拶を交わすなど、日常的な交流をしている。	事業所主催の夏祭り・餅つき等の行事には、地域の住民やボランティア協会から派遣された人達も参加している。利用者は地域の一員として散歩・買物も兼ね、防犯パトロールに出かけている。また、事業所内保育、学童保育の子供たちとも毎日接している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	視察、見学、認知症見守りボランティアの受け入れ、家族の集いに地域の民生児童委員に参加して頂き、認知症の人の理解や支援の方法を広げている。又、夏祭りには地域の人々にも参加して頂いたり、地域の小学校の文化祭や運動会への参加等で認知症の人の理解のきっかけとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に桑名市介護高齢福祉課、地域包括支援センター、第3者委員、自治会長、ご家族の方に参加して頂き、様々なご意見を頂き、サービス向上へ役立っている。	2ヶ月に1回開催しており、市へ年間会議計画書を提出し参加を得ている。参加者から事業に(防災訓練等)参加されての貴重な意見・提案もあり、サービスの向上になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	桑名市地域包括支援センター認知症見守り安心ボランティア教室の実習受け入れをしている。又、桑名市介護支援ボランティア受け入れ施設、徘徊SOS緊急ネットワーク事業協力機関となっている。又、成年後見制度利用等で介護高齢福祉課と連携、桑名市消防本部・自治会連合会との地区防災訓練で連携を図った。	市との連携は良く、施設長が認知症サポーター養成講座の講師をしたり、ボランティアの臨床研修も受け入れている。また、成年後見人制度の利用者の対応で市との連携がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から、身体拘束をしないケアを研修などを通じ全職員が理解を深め、身体拘束ゼロへの取り組みをしている。万が一そのようなケアを必要とする場合、事前にご家族へ書面にて承諾を得てから、記録に残すことになっている。	事業所の(1階、3階)の改修工事中で利用者は、別の所に転居したり、部屋の変更等もあり、現在玄関は施錠しているが、家族代表者には了解を得ている。職員は身体拘束のない介護の研修を重ね研鑽している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について資料や研修会などをひらき、職員一人ひとりの意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度や成年後見制度についての研修会を開き、理解を深めている。又、地域包括、中央包括と連携をとり、成年後見制度の活用の支援も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族と十分に話し合う時間を持ち、疑問や不安を話しやすいようにしている。又、書類の改定時は書面と共に、家族会などで出来る限り直接説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談窓口、苦情相談員を設けている。又、ケアカンファレンス時に利用者や家族の意見・要望を聞くよう努めている。苦情・要望が出た場合、受付表を利用し、話し合う時間を設けて改善できるようにしている。	家族には来訪時に利用者の様子を話しており、また、月1回及び3ヶ月に1回のカンファレンスに参加された時に意見等を伺っている。以前家族から「自分で歩かせて欲しい」との要望に、職員が段階的に取り組み、買物に出かけられるようになった事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のケアカンファレンス時や「月間報告書」等で意見や提案を出したり、各ユニットの意見は主任がまとめ、週一回の主任ミーティング時に報告を行い、運営に反映させている。	主任者会議が週1回あり、情報交換をしている。また、職員個別に月間報告書を提出し、意見・提案等は実践に生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の実績表、委員会活動の報告書などを毎月提出し、代表者が個々の努力、実績を知ることができ、各自がユニットのみならず積極的に活動へ参加し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には一定期間、主任、職員がつき、業務マニュアルやケアプランに沿って、利用者の状況と対応などを指導する。又、法人外の研修参加の機会を設けたり、施設内で毎週金曜日に勉強会を開き、職員のスキルアップが出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会、三重県地域連携・桑名ユニット、NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークや日本認知症グループホーム大会等、他施設との情報交換やネットワーク作り、職員の研修会への参加や事業所見学の受け入れ、見学に行く等を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴、家族関係に配慮しながら、本人が困っていることや要望などを聞く機会を設けている。解決のための話し合いをもち、希望に沿うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族の思いや本人の普段の様子、不安な事、生活歴などを聞き、利用の際に希望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャー、相談員、入居前のサービス事業者、必要に応じ医師や看護師との連携をとりながら、必要とされる他のサービス利用の説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを出来る限り尊重し、又出来る事に合わせ、それぞれが役割を持ち、互いに支え合い、共存しているという関係づくりを、他の入居者や職員などで行っていきけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にケアカンファレンスに参加して頂き、共に本人のケアを考え、又ご家族の希望も教えて頂いている。食事会や大掃除、餅つき、夏祭り等の行事にも参加して頂き、日頃のご本人の様子は、月一度郵送しているお便りにてお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣や石取り祭り、ショッピングセンターなど、馴染みの場所への外出機会を作り、馴染みの人との交流のきっかけ作りをしている。馴染みの場所での生活の話を傾聴しその場所を思う気持ちを大切にしている。また、ご家族にもご協力頂いている。	家族の支援で冠婚葬祭には帰宅している。また、日本舞踊発表会、小学校の運動会に参加し、楽しんでいる。年2回のホテルなどでの家族会の食事会は馴染みの機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の思いを尊重し、利用者同士が互いに支え合えるような関係づくりの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かしらの理由で退居された方であっても、必要に応じて訪問し、本人・ご家族の状態について、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、入居者の希望や暮らしの中での思いを把握・記録できるように努め、申し送りやケアカンファレンスの時に情報が共有できるようにしている。	センター方式の思いの把握は年1回、確認している。利用者と日常の1対1の対応時に思いを話されることを大切にしており、たずねる時は二者択一の方法をとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴やお好きだった事など、出来る限り本人・ご家族と情報を共有する。又、入居後も日々の生活の場面で情報収集をおこなっている。過去の暮らしぶりをまとめた自分史を作成し、新しい職員にもすぐに把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用して、職員全員が生活場面での気付き、本人の発言や様子を記入することで、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から本人の意見・要望等を伺い、毎月のケアカンファレンスに活かしている。出来る限りご家族にも参加して頂き、参加できないご家族には面会時や電話にて現状の報告・情報交換を行い、介護計画を作成している。	月1回のカンファレンスで家族・介護支援専門員・職員で検討し、介護計画を作成している。また、家族の評価も書かれており、3か月に1回見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の様子や発言、ケアプランの短期目標の状況等を記録している。更新のあったケアプランはユニットの職員全員が確認し、情報を共有している。往診時には療養シートで医師の意見を伺い、次のケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に応じた外出や買い物等、柔軟な支援を行っている。本人・ご家族・ボランティアを交えた行事で交流を深めたり、入居前に利用されていたデイサービスの訪問等で情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時ボランティアを受け入れており、自治会の広報の配布や回覧板、地域清掃、親睦会、散歩を兼ねた防犯パトロール、資源ごみの回収、地域の青少年育成藤ヶ丘地区の文化祭・運動会の参加、地区防災訓練に参加し地域の中で力を発揮して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と随時連携を図り、往診時に利用者様の様子を伝え指示、助言をもらっている。他の医療機関受診を希望、必要とされる際は、ご家族に伝え、ご本人の要望も伺いながら適切な医療が受けられるよう支援している。	法人の医療機関の医師がかかりつけ医で往診もされ、看護師は週1回来訪しており、適切な医療が受けられている。眼科受診は家族の支援である。救急時の対応マニュアルは作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関と随時連絡を取り、医師の指示の下、看護師に対応してもらっている。緊急時の入院や夜間、休日等の緊急時にも、看護師に対応してもらおう時がある。又、利用者に応じた介護法の相談も随時対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリー等の必要な情報を医療機関に伝えて連携を図っている。又、本人、ご家族の希望に添うよう医療機関と情報交換や相談に努めている。日頃から連携医療機関との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、ご家族と話し合い、アンケートを取り、ターミナルケアの希望を聞いている。又、利用者の状態に変化があった際は、本人、ご家族、医師と共にその後の方針を話し合って支援を行っている。	重度化や終末期の対応については年1回アンケートを実施し、家族の意向を把握している。利用者の重度化や終末期に直面した時は「看取り介護」についての同意書を得て、家族・職員等で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同グループ内の研修で看護師や消防署による心肺蘇生法、応急処置、急変時の対応を行っている。緊急時の緊急連絡網を整えている。又、施設内でのヒヤリハットを利用者ごとにまとめ、事故の多い箇所を職員が把握し、再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、夜間を想定した訓練を消防署立ち会いのもと実施している。又、桑名市防災対策課職員による地震・風・水害対策(桑名ふれあいトーク)に入居者と共に参加した。	年2回消防署の指導で、防火・避難訓練等を実施している。3回目を来る11月21日に、近隣住民の協力を得て避難訓練を実施予定である。夜間想定訓練を実施したが、職員の通報訓練は再確認したい。	災害訓練は訓練回数を重ねるほど迅速に判断が出来る、行動がとれる。そのためにも機会ある毎に、通報・避難訓練を実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言動や態度を省みながら、誇りやプライバシー保護の配慮したケアに努めている。特に声かけには注意を払っている。また、見学や取材に対してご家族に書面で了解を頂いている。また、本人にも了解を得ている。	利用者の人格を損ねるような言葉使い、行動はしない事等を研修委員が研修計画を立て研修を実施をしている。また、利用者の人格の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表現できるように、その都度利用者の声や表情を読み取り声かけすることで、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話を通して、またその時の心身状態に配慮し、役割の声かけをしている。一人ひとりのペースを大切に、散歩や外気浴、買い物を楽しんでもらい、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪ボラティアに来てもらい、利用者の希望する髪型・染髪をしている。夏祭りやお茶会、正月には好みの着物を着て頂き、お化粧をして髪形を整えておしゃれを楽しんでもらっている。年2回の家族ら約100名でのホテル等での食事会にもおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備、味付け、片付けを職員と利用者が協力して行っている。また、誕生日や季節に応じた献立を利用者と考えて、準備をしたり、作ったりすることで、季節を感じ、食事が楽しみになるような工夫をしている。	嗜好調査をして栄養士に相談し、献立を作成している。食材は買物に出かけたり、商店へ注文したりしている。調理は各階でしており、利用者は調理の下ごしらえ、盛り付け等を手際よくしていた。週1回はかまどでご飯を炊いたり、行事の時は特別献立、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を個人記録に記録して、24時間を通して把握できるようにしている。又、医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士の指導で摂食、嚥下機能		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下障害のある方には、食前のアイスマッサージ、嚥下体操、食前・食後のSpo2測定、食後の歯ブラシやくるり～なブラシによる口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを、排泄チェック表にて、把握している。個々の利用者の排泄リズムに合わせ、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を利用し、全利用者がトイレでの排泄である。夜間のみ1名リハビリパンツを利用している。1名バルンカテーテルを留置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の種類・水分・運動を利用者の状態や好みに合わせ、工夫している。又、医師の指示に合わせ、下剤も服用するが、水分を多めに摂ったり、毎食お米に粉寒天を混ぜ食べて頂くなど、薬に頼らない工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望する時間帯に入浴して頂けるよう支援している。又、会話やマッサージを行い、一人一人がゆっくりと楽しく、リラックスしながら入浴して頂ける工夫をしている。	週3回入浴できる。2階の浴槽は最近取り替えられた新式のポランテエコ式(浴槽)で操作により自動的に湯が入り、入浴後湯は機械の装置を循環し浄化されるもので、利用者は驚きつつも楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズム、身体状況に合わせ、休息して頂いている。安心して休息、睡眠をして頂けるよう、環境整備を行い、声かけ、傾聴も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の仕分けを職員が行い、薬の用法、用量、副作用を理解し、服薬を行っている。症状に異変があれば、直ちに医師、看護師に連絡し、適切な処置を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る力に合わせ、役割を持って頂いている。又、利用者の知識を生かし、野菜作り、料理等を楽しんで頂いている。一人一人が何かの役割を持てるよう、工夫し取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じ、外気浴、散歩、ショッピングセンターへの買い物、パトロールへ参加して頂いたり、ご家族と一緒に外出され楽しんで頂けるよう努めている。又、外出ボランティアの方の協力でフラフェスタ等に参加して頂いた。	玄関先のベンチでの外気浴、一日1回は外気浴や畑仕事など楽しんでいる。利用者の希望等で、買物・防犯パトロール等、月1回の外出支援として季節毎の花見、外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人で可能な限り金銭管理をされている方もみえる。こちらでサポートして、報告もご家族にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を通じてご家族とコミュニケーションをとっている。中には携帯電話を利用して、いつでもご家族と連絡出来る状況の方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間における床、テーブル等の掃除や消毒を徹底している。音楽やテレビの音量調節、照明や室温の適度な調節に気を配っている。年間行事に応じて、装飾や音楽も楽しんで頂いている。	玄関の壁に神棚が祀っており、居間兼食堂は一日の殆どの時間を過すところになっている。利用者同士、また職員との会話も弾んでいる。午後3時過ぎになると「パンの木」の学童が来て賑やかな時になる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が座れるようなリビングの座席配置を行っている。天気の良い時は、玄関先のベンチで談笑されたり、外気浴を楽しむ方も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、衣類、食器、装飾品等は、利用者本人のなじみ深い物を使って頂けるように、ご家族と相談し、環境を整えている。	居室は居間兼食堂からは近く、各居室にはベット、物入れが設置されている。利用者一人ひとり使い慣れた物・好みの物が置かれ、居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立性の高い環境で生活出来るように、共用の場所や居室に手すり、表札、案内板を設けている。そして家具も固定化している。		